「家計調査年報」

今回ご紹介するのは，本ではなく統計データ集の「家計調査年報」です。これは，総務省で毎年実施している家計調査の結果をまとめたものです。調査の目的は「国民生活における家計収支の実態を把握するため」とされており，家計収支，品目別支出金額が掲載されています。

室内環境学会会員の皆様で，家庭では「どんなもの」を「どのくらい」購入しているか，できるだけ信頼できる情報源から知りたい，という方は少なからずいらっしゃるのではないでしょうか。筆者の例で恐縮ですが，室内における化学物質安全の評価をする際，平均的な化学物質の使用状況と，かつ「大量に使われる場合」といったワーストケースの使用状況の両方を整理しました。平均的な使用状況を想定する場合，家計調査の「二人以上の世帯」と「単身世帯」のデータが役に立ちました。

さて，この調査は対象の分類が細かく，特に食品については「うなぎの蒲焼」などもあり，見ているだけでも面白いです。化学物質関連でいうとシャンプーや洗剤，化粧水，乳液，口紅などの化粧品，衣類，かばん，書籍，耐久財と称して家電から自動車まで…。

それぞれ量および購入頻度が掲載されており，研究に関係がなくても，ついじっくり見入ってしまいます。どのくらいの頻度で買い換えるのだろう？　という疑問には，購入回数の逆数で考えれば良いので，1世帯あたり購入回数が0.1ならば，平均的には10年に1回買うということが推測できます。

また味わい深いのは，地方別に加えて，県庁所在地の市のデータに限られますが，県別の差異もおおまかに見ることができることです。餃子を日本一食べる町として宇都宮と浜松で争っている，という話題を耳にされた方もおられるかもしれませんが，その元になったデータはここから来ています。

実際に調査するにあたっては，関係者の多大なる尽力が欠かせません。サンプリングは層化3段抽出法で（この方法により代表性が担保されているとされています），選ばれた全国計約9,000世帯がモニターとなります。モニターでは家計簿を毎日，二人以上の世帯では6ヶ月間つけてもらいます。食料品は頻繁に購入されるためか1ヶ月間となっていますが，それでも時間と手間をかけて回答されていることは想像に難くありません。

本書のデータは総務省統計局WEBサイトからもエクセル形式でダウンロードできるものの，書籍のほうが一覧しやすいため1冊手元にあると便利です。購入は日本統計協会のWEBサイトから。統計表のCD-ROM付きで¥6,500（税抜）となっています。

（産業技術総合研究所 安全科学研究部門　小野恭子）